

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法Ⅲ Social Work Theory and Methods Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助の意義・形態を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と技術、方法論を概説する。本講義では、ケースマネジメント、グループワーク等を取り上げ、相談援助過程について学習し、事例や演習を取り入れ、ケースの開始から終結までを体験あるいは概観する。そのなかで意義や目的、方法、留意点などについて講述する。				
授業の目標				
①相談援助活動の対象の特徴を述べるができるようにする。 ②相談援助の意義と形態を説明できるようにする。 ③相談援助のプロセスを事例を通して確認できるようにする。 ④各相談援助技術の特徴と活用を学び、総合的な援助を例証できるようにする。				
授業の方法				
テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義方式とする。各種技術を習得あるいは体験するためグループでの演習（プログラミング、ロールプレイ）や個人ワークを取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①相談援助活動の対象の特徴と援助技術を列挙でき、知識と技術がどのように活用されているのかを確認できる。 ②事例のなかで活用されている援助技術や各援助技術の関連を明確にできる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標と進め方、成績評価の説明、諸注意等）、集団を活用した相談援助①			
第2回目	相談援助における対象の理解、集団を活用した相談援助②			
第3回目	集団を活用した相談援助③			
第4回目	集団を活用した相談援助④ 課題 1			
第5回目	ケースマネジメントとケアマネジメント①			
第6回目	ケースマネジメントとケアマネジメント②			

第7回目	ケースマネジメントとケアマネジメント③	
第8回目	社会資源の活用①	
第9回目	社会資源の活用②	
第10回目	ネットワーキング①	
第11回目	ネットワーキング②	
第12回目	アウトリーチ	
第13回目	相談援助の実際①	
第14回目	相談援助の実際②	
第15回目	国家試験対策	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨み、必要なことはノートを取り、学んでいること。周りに迷惑をかけるような態度は、減点対象とする。
レポート	10%	集団援助技術についてレポートを課す。以下の点で評価する。評価Sは、課題のテーマに基づき自分の意見・主張を取り入れ記載されており、作成要領を遵守し、提出されていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	国家試験を基準とした○×形式、穴埋め、記述式、事例問題で出題し、知識及び内容の理解を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：社会福祉士シリーズ「相談援助の理論と方法ⅠⅡ」福祉臨床シリーズ委員会編／弘文堂（相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。		